

吟道月報

NO.19
49.2.5

頌心会

現遼子支部所属、鈴木政江さん、中村あいさんが続いて入会、漸次会員も増加してきた。時々、松井岳洋先生も

堀内支部の歩み

支部長 加藤 洌風

頌心会再建六年の後、支部のオー号として、昭和三十

八年四月、葉山に堀内支部が誕生した。当時頌心会
会員の内で葉山在住の会員も逐次小元、葉山に教場を
作りたいということで、小峰順泉さんの肝入りにより

根岸鬼風、加藤秀風の両先生の指導の下、元町停留所
前の堀内消防団詰所の二階で練習が開始された。

会員は、故根岸基山、鈴木和泉（現長柄支部所属）

井沢朝泉、小峰順泉、加藤圭一の五名で、家族的な雰
囲気の中で練習に励んだ。

十月に入り、小池正枝さん（現建設支部所属）、中
村幸太郎さんが入会された。

昭和四十年に入り、小峰ハツさん、猪田しまさんへ

教場にお見えになり、ご指導下さったことと覚えてい

またその折に、かつて松井先生と、諏訪におられた木村
岳風先生との文通をしたときの岳風先生の書状をおみせ

頂いたりして、当時の思い出話などお聞かせいただき、
岳風先生の面影をしのんだことも深く臆裡にやきついて

いる。

四十二年一月新井佳代さん、石サミさほさん（現一色
支部所属）、鈴木しんさんが入会、暮になって関口八重

さん、高木保一さんが加わり、会員数十九名となり、こ
の頃から堀内支部の発展の気運が高まっていった。この

年に、新田岳悠先生が教場にくられ、杜再作「高きに登
りてしを指導され、この名吟に一同深く感激したことと

覚えてい

十月には堀内会館（現教場）に教場を移し
た。
四十二年は十二月に斎藤秀夫さんが入会、この年は一

名の増加にとどまった。十一月五日には葉山町文化祭の行幸としてオ一回詩吟、詩舞邦楽大会が催され、三井徹風、小林紫舟先生、千葉信泉さん、千葉香泉さんをお招きし、詩吟、詩舞、華道、書道吟十六題を出し葉山におけるはじめての発表会を開催した。この時、白井ひふみさんへ麗泉Ⅱ当時未加入の日本舞踊の出演もあった。

四十三年には、杉山ゆきさんが入会、翌四十四年に入り猪瀬徳重さん、岡本蔵三さん、秋元栄一さん、長野淑子さん、佐々間沖之助さんが続いて入会し、会員総数二十二名となり、オ二敬場を定足させ堀内支部発表の力を着々と築いていった。十一月二日にオ三回葉山町文化祭、詩吟、詩舞華曲の会が開催され文化祭行幸を定着していった。

四十五年は、猪瀬年子さん以下十六名と一挙に会員も増加し、益々隆盛をみた。六月七日、オ五十八回全国大会が虎の門の国立教育会館で開催され、堀内支部より、台吟コンクールに

根岸是哉、三井徹風、小峰順風、加藤圭山、中村幸山中村愛山、鈴木政山、小峰智山、南口寛泉、高木宏泉、斎藤秀泉、杉山雪泉、岡本慶泉、秋元栄泉の以上十四名が出吟、見舞に入賞の栄を得たことは堀内支部の歴史に輝かしい足あとを残したことは、喜ばしい限りであった。四十二年より毎年開催される文化祭行幸は邦楽、日本舞踊など合同で発表されていたが、十一月一日のオ四回の文化祭からは、詩吟、詩舞の会と改め、長柄、下山口、一色の各支部会員の手により運筆等一切を行なうようになり、七十九題の出題を見、実のある会を催すようになった。

四十六年一月に中山忠次郎さんが入会し、この年は九名増員し会員数五十二名となった。又、小峰順風支部長の発表により、元旦九時より森戸神社にて気分も新たに新着初吟会を催した。二月十四日大船支部開設五周年吟道大会に井沢朝風、小峰順風、中村幸山、長谷川松山、小池信山、中村愛山、鈴木政山、岡本慶泉、秋元栄泉、長野淑泉、石渡桂子さん十一名が応援参加した。

又、会員の親睦を深めるため、四月十九日・六月七日の二回に亘り葉山マリーナにおいてホーリング大会を行ない、名回共二の名様の参加があり、大いに親睦の絆を深めた。十月八日始めの試みである吟行会を開催、武蔵愛造さんのお骨折りにより山梨に、バスでほんつかりを行ない、参加者は三十二名、内一色支部八名、下山支部より一名の参加者があり、仕事のこと、家庭のことなどを忘れ楽しい一日を過ごした。

十月には、C組が発足し、十一月三日の文化祭行事は華道へ(石渡理桂)書道へ(坂本堇花)茶道と交え七十七題を出題、多様な行事であった。

四十七年に高橋章さん以下十六名の入会者をむかえ会員数六十四名に発展、碩心会の興隆の礎を著々ときかいていった。

元旦にはオニ田舎戸神社奉納初吟会を行い約二十名の参加者があり、この行事も恒例になった。一月九日初吟会を飯場で行い、高松岳湖、新田兵衛両先生をお

招きし、会員五十名参加、余興を交えなごやかにすごした。又、この年の二月「D組」として中村幸風宅に飯場を開設した。会員相互の連絡、意見交換の場として、代刷紙「支那」より創刊号を四月一日に発行、秋元梁泉さんが編集委員長として大変お骨折りいただいた。爾後、毎月発行し四十八年四月までオ十三号を発行したがこの年八月に碩心会より「吟道月報」が発行されるようになった理由等もあり、現在は休刊している。四月一日総本部事務局より「吟道」の飯場八景取材に高麗宏先生が堀内飯場に来訪、松井岳洋先生も同行され、取材記事は同年五月号に、飯場めぐり「避暑地の飯場」のタイトルとして掲載された。

十月、堀内支部発足以来、支部長として支部発展のために尽力された小峰順風先生に代つて、新支部長に加藤洸風、副支部長に中村愛風を送出した。

十月八日、小峰順風前支部長の永年の労苦に感謝をかね、月見の会を開催、又秋にオニ田舎戸初吟会を伊豆一碧湖

— 新会員 —

吟甫 佐藤秀夫 横須賀市馬場町三の五一 電 4133598 (呼出)

堀内 松岡老休 葉山町堀内五三〇 電 7532118

" 沼田安治 下山口五七〇 電 7534400 (再入会)

" 中根信治 堀内六〇七 電 7530918

" 中谷宏 " 一色三〇二二 電 7531231

— 名簿訂正 —

22 平本富太郎の 大船二一七一四を、二一六七一七に

57 若田伊三郎の 長柄を 大船に

60 根岸シズ子を 根岸シム子に

172 迫辰ギヨネを 迫辰ギヨ子に

187 桶垣勝美の 王繩三一六〇を 三一六〇三に

227 伊藤タミの タミを きみに

273 藤田のり子の 桜山を 紫舟に

退会役員

112 桜山支部 尾崎湘泉

188 大船支部 堀越天郎

189 沼間支部 高橋 巖

218 " 柏村寿一

255 大船支部 松井忠夫

291 堀内支部 金子よし